

1.1 哲学を研究する大学院生および非一常勤職研究者が現在置かれている現状を踏まえて次の設問にお答え下さい。
 現在、大学院生および非一常勤研究者に対して、迅速に対応すべき問題は何かと思いますか。
 ★研究面

ID	自由記述内容	学会	年齢	性別
5	あえてここで言うほどの不満はない	日本哲学会	29	男
8	専攻分野によって業績をあげやすい・あげにくいが顕著	日本哲学会	30	男
9	研究環境が悪い。専用のデスクや研究室がないため、毎日、研究場所を決めるのに苦労する。図書館、喫茶店、ファミレスなどで研究することになる。しかし時期によってはどこも混雑して研究場所が見つからないこともある。また、いつも大量の資料を持ち運ばなければいけない。	日本哲学会	30	男
21	図書館が充実していない	日本哲学会	33	男
33	論文投稿の機会が少ない	日本哲学会	36	男
41	所属していない者に対する大学の閉鎖性	日本哲学会	38	男
42	地方の大学では院生仲間が少なく、モチベーションの維持が困難。	日本哲学会	38	男
45	研究費のために、アルバイトをしても、経済的問題の解決が困難なことです。	日本哲学会	39	女
59	学会発表のための旅費、書籍購入費等の研究のための支援不足。	日本哲学会	43	男
75	特にありません	日本哲学会	51	男
77	大学院全入時代に突入している現状に起因する様々な問題。	日本哲学会	52	女
79	ポスドクのためのポストが理系と比べて少ない	日本哲学会	52	男
88	大学図書館の利用範囲の拡大（書庫への入庫等）（所属機関がないと研究はしてはならないのだろうか）	日本哲学会	57	男